

# 「まんがのべおかの歴史物語」

## 延岡史談会 企画監修し発刊

### 3/26 漫画は しいや・みつのりさん 近く発売

延岡史談会（後藤博文会長）は、延岡市の歴史や文化、郷土の偉人などを多くの人に知ってもらうために「まんがのべおかの歴史物語」（鉾出版社発行）を発刊した。同会が企画監修、漫画は同市出身で埼玉県在住の漫画家・しいやみつ（り）（椎屋光則）さんが担当した。近く県内書店などで販売する。税込み1100円。

ほか、図書館などに寄贈する。売れ行きによつては増刷も検討する。残る約1100冊は市教育委員会が購入し、小学6年生に卒業記念品として贈呈した。

後藤会長は「次代を担う延岡の子どもたちが郷土への誇りと愛着を持つきっかけとなり、延岡市民だけでなく多くの人々に延岡史を理解してもらえ」と話している。

販売についての問い合わせは同会副会長の甲斐典明さん（☎090・71611・7672）。

「縄文海進と大貫貝塚」や「平安時代のまつのべおか」「中世の有力者土持氏」「城下町延岡の創建者」高橋元種「岩熊井堰（いせき）の開通 家老藤江監物と郡奉行江尻喜多右衛門」「西南戦争と城山の鐘」「若山牧水」のべおか新興の母野口遵「太平洋戦争と延岡大空襲」などの話を収めている。

## 旧石器時代から吉野さんまで

### 偉人、賢人など48話

「故郷延岡の歴史を漫画にすることで郷土に恩返ししたい」という椎屋さんの熱い思いを受けた同会が、地域の歴史・民俗の調査研究を通じて、歴史・文化都市延岡の文化の向上に寄与するという会活動の目的に照らし、延岡の歴史を体系的に可視化した漫画本の発行を決めた。

本は約2200冊を

A5判の144ページ。3万年前の旧石器時代から旭化成名譽フェロー吉野彰氏のノーベル化学賞受賞（2019年）まで、各時

代の延岡を象徴する歴史事項や偉人、賢人の話など48話を取り上げ、1話見開き2〜4ページで紹介。年表や地図を添付し、歴史を立体的に理解できるようにしている。

延岡史談会は23日、延岡市立図書館と北方、北浦、北川の各分館に、同会が発行した「まんがのべおかの歴史物語」10冊を蔵書として寄贈した。後藤会長らが市役所を訪れ、澤野幸司教育長に本を手渡した。

## 延岡市教委に寄贈

後藤会長は「漫画にすることで読みやすくなった。多くの皆さんに読んでほしい」とあいさつ。さらに「市民が延岡の歴史を学び、ふるさとへの愛着を一層持ってもらえる一助になることを願っている」と目録を読み、本を手渡した。

- ▽第1章 旧石器時代（数万年前）
- ▽第2章 古墳時代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）（3世紀中ごろ）
- ▽第3章 鎌倉時代

澤野教育長は、同本を小学6年生に卒業記念品として贈ることなどに触れた上で、「子どもたちにとって中学で歴史を学んだり、延岡のことを学ぶ上で貴重なきっかけになる。子どもや市民のために活用したい」と謝辞を述べた。

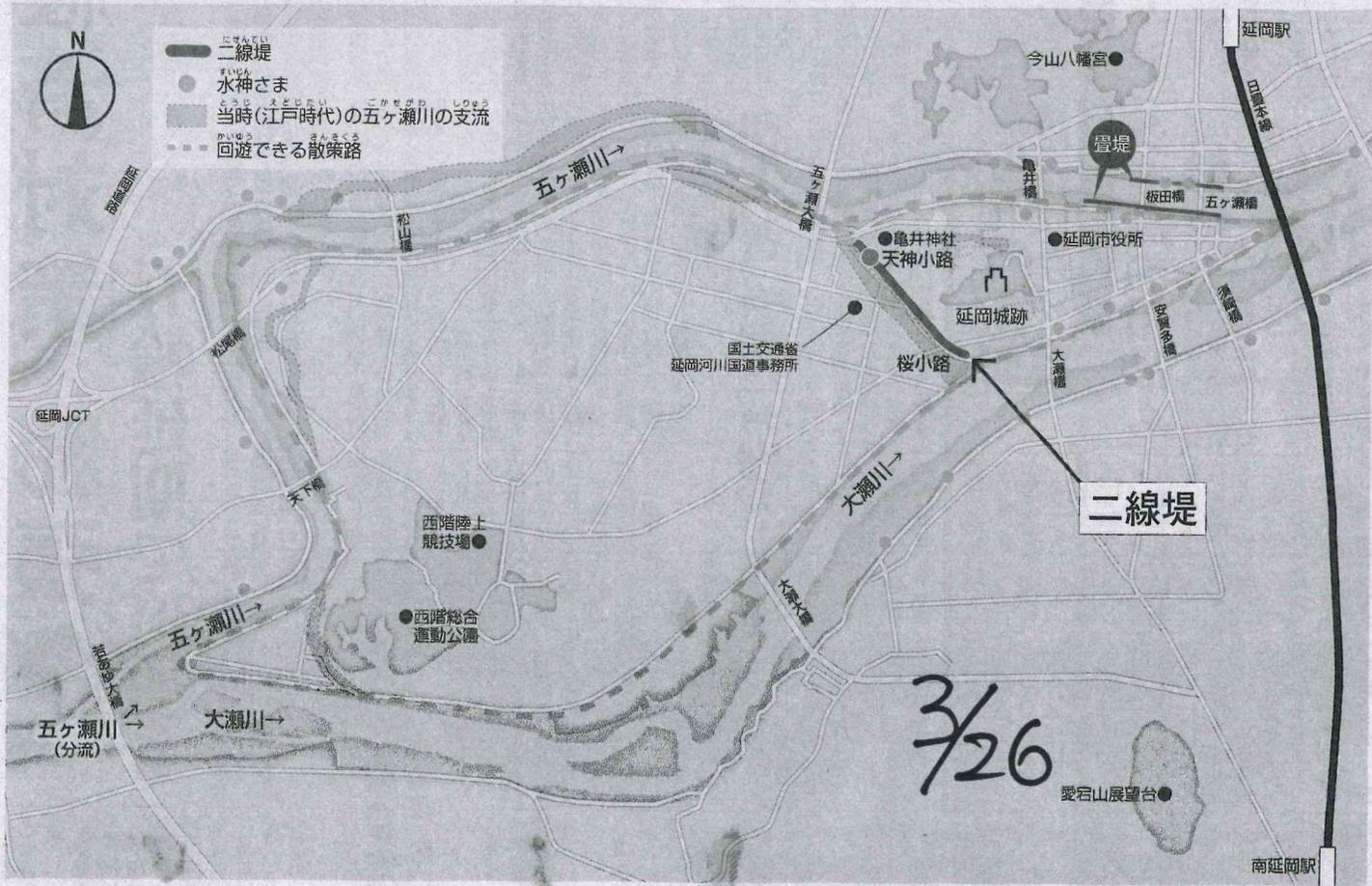


延岡史談会が発行したA5判144ページの「まんがのべおかの歴史物語」



澤野教育長に本を手渡す後藤会長

# 「二線堤」洪水から城下を守る



## 1603年ごろ築堤か 由来記した看板設置 国交省と市など

延岡城築城の際城下を水害から守る堤防として普請され、現在は五ヶ瀬川、大瀬川堤防の控え堤の役割を果たす「二線堤」(延岡市天神小路一核小路の南北側起点に、国土交通省・延岡市、天下一五ヶ瀬かわまち創り会が、堤防の由来や歴史などを記した看板を設置した。

堤防の種類には、洪水を防ぐ役割の「本堤」、集落や耕地を水を防ぐ役割の「本堤」(横堤)、集落や耕地を水を防ぐ役割の「本堤」(横堤)、「輸出堤」(河川の分流・合流地点に設置する「導流堤」などがあるが、「二線堤は、本堤の保護の目的で築造され、本堤が破壊された場合、洪水が氾濫する」

防いで被害を最小限にとどめる役割を果たす。控え堤「番堤」なども呼ばれる。

市民会館駐車場の東側から延岡小学校の付近まで南北に整備された堤防は、延長約400m、内藤家の古文書

川とともに暮らす記憶の遺構

書などによると、1603(慶長8)年ごろに高橋元種が築いたとされ、当時堤防の西側の五ヶ瀬川・大瀬川間に支流(延岡城の内堀)が流れ、堤防は、支流の氾濫から城下を守るための「本堤」だった。内堀が埋め立てられた後もその姿を残し、五ヶ瀬川、大瀬川本流に本格的な堤防が築造された後、1951(昭和26)年から二線堤として国土交通省延岡河川国道事務所が管理している。

同省によると、堤防の存在が確認できる最も古い資料は、有馬氏が城主だった頃の絵図(1675~1683)年で、草木を植えた様子が描かれている。それ以前の資料は現存していないが、延岡城築城の際に整備されたのでは、「という説が有力という。

看板は、亀井神社鳥居前と核小路側の堤防と市道の交点付近の2カ所に設置された。築堤された当時、南北に流れていた支流とそれに沿って築造された堤防の図が書き込まれ、「川とともに暮らす記憶の遺構」のタイトルで、「二線堤の歴史や役割などを説明」今も市街地を守る役割を担う「二線堤は『番堤』や『水神さま』同様、水郷延岡の歴史を偲ばせます」などと書かれている。



二線堤に国交省などが設置した看板

